

戦国屈指の知将

小早川隆景

ものがたり ⑪



三原城を築き、現在の三原市の礎を築いた小早川隆景。広報みはら最終ページでは「小早川隆景ものがたり」を連載し、みなさんと一緒に隆景の生涯をたどります。

秀秋を養子に迎える

小早川隆景が豊臣秀吉の家臣・黒田孝高から、秀吉の甥・秀秋(この頃は秀俊と名乗り、隆景の死後に秀秋と改名)をまだ子どものいない毛利輝元の養子にどうか、と話を持ち掛けられたのは、天正19(1591)年ごろのことでした。

秀秋は当時10歳。気位が高く、気性が激しいといううわさがあ



▲絹本着色 小早川隆景像(米山寺所蔵)

つたため、隆景は輝元と相談し、毛利家では隆景の弟・穂田元清の子・秀元を養子に決めているという理由で、この話を断りました。

秀秋の養子問題はいったん決着しましたが、毛利家にとって本当に良かったのかと隆景は考えました。また、隆景が治めていた筑前国(現在の福岡県)は本来、秀吉の領地で、いずれ、豊臣家へ返却するのだという気持

ちもありました。そこで、隆景は秀秋の将来について思い悩む秀吉の気持ちもくみ取り、小早川家の養子として迎え入れることを決意。秀吉に申し入れました。

三原での秀秋の結婚式

隆景は文禄3(1594)年、13歳の秀秋と輝元の養女の結婚式を三原で行うことにしました。

伏見にいた秀秋らは文禄3年11月13日に三原に到着し、17日の午前4時ごろに結婚式を行いました。このとき、三原に参集したのは、隆景、輝元、吉川元春の子・広家とそれぞれの配下の大名ら500人余り、さらに引率された者は5000人を超えていました。

これに加え、筑前国の博多からは、朝鮮や中国との貿易などで栄華をきわめた島井宗室や神屋宗湛などの豪商が船を仕立てて、海路で三原へやって来るなど、三原はこれまでにないほどにぎわいました。

秀秋らの滞在は11月13日から24日までの11日間。滞在中は、結婚式と19日に行われた毛利・小早川家の重臣の秀秋に対するあいさつの儀式のほかは、連日、

舟遊びや鷹狩り、能楽が催されました。三原を去る前日には須波島(佐木島)に出掛けています。秀吉は隆景に、同年12月3日付けで、秀秋が三原で歓待された札と、結婚の成立を喜ぶ内容の手紙を出しており、三原におけるこの儀式が豊臣・毛利・小早川三家の関係を固める政治的な意味を強く持っていたと判断できます。

三原への隠居

隆景は養子として迎えた秀秋に筑前国を譲り、三原に隠居することを決めました。



▲絹本着色 小早川秀秋像(高台寺所蔵)

参考文献

『三原市史 第二巻 通史編』

昭和52年

三原市役所 編集兼発行

文化課

☎0848-649234

あ・と・が・き

2月といえば三原神門市。小学生のときにお小遣いを握り締め、神門市にだるまやあめ玉を買いに行ったのは私の良い思い出です。子どもの頃に経験したことは大人になっても覚えていたものですね▼今月は映画「やっさだるまん」の先行上映会が開催されます。この映画にはたくさん子どもたちも市民エキストラとして参加しています。子どもたちにとって、映画の撮影は忘れられない経験になったのではないのでしょうか。映画の公開が楽しみです(F)

税金などの納期(普通徴収)

- 固定資産税都市計画税(第4期)
 - 国民健康保険税(第8期)
 - 介護保険料(第8期)
 - 後期高齢者医療保険料(第8期)
- 納期限 28日(水)まで
夜間収納窓口(19時まで) 毎週木曜日

航空機の騒音測定結果(12月分)(Lden)

- ▶正広局(本郷町善入寺正広)=53.3
- ▶本郷局(本郷町船木川西上)=53.5

三原市の人口(12月31日現在)

※外国人住民を含む。
※()内は前年同月との比較。

世帯数	43,824 世帯	(-245)
人口	95,670 人	(-1,312)
男	45,794 人	(-680)
女	49,876 人	(-632)

人口移動の詳細については
広島県 人口移動 月報 で
検索